

もしもの
時に
備えて

災害廃棄物の分け方・出し方

■問い合わせ先 環境課廃棄物政策係 (☎32-1969)

災害廃棄物とは？

大規模な災害が起きた際に、建物の損壊や浸水被害などによって発生する大量のがれき、住宅等を片付ける際に出てくる家具・家電などのごみのことをいいます。

市の1年間のごみ量
(令和2年度実績)
→約6万6千トン
水害※による
災害廃棄物発生量(推計)
→約80万トン

約**12**年分!

※岩木川水系河川の氾濫による水害を想定
(弘前市災害廃棄物処理計画)

仮置場とは？

災害の規模によっては処理に数年の期間を要する場合もあるため、災害廃棄物を一時的に保管しておく場所です。

STEP1

生活ごみと災害廃棄物を分ける。
→災害廃棄物は道路やごみ集積所には出せないのをご注意ください。

STEP2

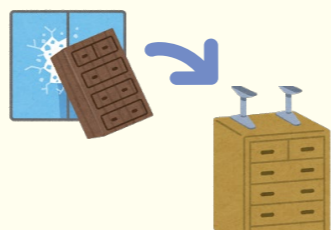
災害廃棄物を分別して仮置場に出す。
→早期処理のためには分別が欠かせません。分別にご協力よろしくお願いします。



日頃からできること

◆不要な物は処分しておきましょう。
→災害廃棄物が少なくなります。また、避難経路確保にも繋がります。

◆家具は転倒しないように固定しておきましょう。
→破損を少なくし、転倒による危険も回避できます。



さらに詳しく
国立環境研究所作成動画
「災害ごみのこと」



ごみ分別ステーション ×海ごみゼロウィーク



弘前さくらまつりにおいて、4月29日から5月3日の5日間、環境省と日本財団の共同プロジェクトである「海ごみゼロウィーク」の取組の一つとして、海ごみゼロのPR及びごみの分別を呼びかけました。来場された方々に、海ごみゼロのロゴマークが入ったごみ袋を配布し、海洋プラスチックごみをはじめとする環境問題に対する意識向上を図りました。



海洋プラスチックごみを与える影響

海岸に打ち上げられたクジラの胃から100kg程のプラスチックごみが発見されたり、ウミガメがビニール袋(ポリ袋)をクラゲと間違えて食べてしまうなど大きな影響が出ています。このままでは2050年には、魚の重量よりも海洋プラスチックごみの量のほうが多くなるとの予想もあり、深刻な環境汚染が危惧されています。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



始めてみませんか「てまえどり」

市では食品ロス削減を図るため、市内スーパー等にご協力をいただき「てまえどり」を推進するポスター等を設置しました。「てまえどり」とは、買い物の際、陳列棚の前にある商品を進んで買うことをいいます。青森県の調査によると食品小売業の食品ロスの発生要因は、約95%が消費・賞味期限切れとされています。食品ロスを削減するためにもすぐに食べる食品は手前から取り、食品ロス削減に貢献してみませんか。



食品ロスとは

本来食べられるはずなのに、捨てられてしまう食材のことをいいます。日本では、年間約**600万トン**もの食品ロスが発生しており、毎日1人あたり、お茶碗一杯分のご飯に相当します。

1人1日あたり食品ロス量
約130グラム



賞味期限と消費期限の違い

消費期限・・・「安全に食べられる期限」のこと※

例) お弁当、サンドイッチ、生めん、ケーキなど

賞味期限・・・「品質が変わらずに美味しく食べられる期限」のこと※

例) スナック菓子、カップ麺、チーズ、かんづめなど
賞味期限が切れてもすぐに食べられなくなるわけではありません。

※袋や容器を開けていない状態、書かれている保存方法を守っている場合に限りです。一度封を開けた商品は消費・賞味期限に関わらず早めに食べましょう!

災害発生後、速やかに仮置場や分別方法を決定し、お知らせします。
慌てずにお待ちください。



道路脇や住宅横に集積された災害廃棄物
令和2年7月豪雨



仮置場：令和元年東日本台風

写真出典：災害廃棄物対策フォトチャンネル（環境省）